



第 13 号

2015年8月1日

会 員 募 集 中
年 会 費 二 千 円
十 月 以 降 入 会 千 円

定期総会

新副会長に大田氏、石尾氏 抜刀術演武、講演「三島中洲」「高杉晋作」

今年度の定期総会が四月二十九日、山陽新聞社さん太ホールで行われた。会員、一般を併せ、約三百名が参集した。天野会長の挨拶に続いて、昨年度の事業報告、並びに歴史団体調査報告書の刊行等を含む今年度の事業計画、そして新役員案が提案され、承認された。

出された。

総会後、津山藩に伝わる抜刀術、「初實剣理方一流甲冑抜刀術」の演武が大河原喬氏(当会顧問)他二名により披露された。続いて記念講演、「教育者三島中洲」「山田方谷門下生」

「初實剣理方一流甲冑抜刀術」の演武が大河原喬氏(当会顧問)他二名により披露された。続いて記念講演、「教育者三島中洲」「山田方谷門下生」

新役員として、副会長に大田弘之氏、石尾陽子氏が、また、運営委員に雨坪寿則氏、山本茂氏が新たに選

免許 大河原喬氏



免許 大河原喬氏

中洲を顕彰、高杉晋作の心根

講演を聴いて 副会長 石尾陽子

教育者三島中洲「山田方谷門下生」

人です。

中洲は倉敷のご出身。山田方谷先生の教えを受けられ、司法界、教育界等で多大な活躍をされました。

後、二松學舎を創立。百三十年余り経た現在でも建学精神が継続して教育されています。

晩年には東宮様(後の大正天皇)にご進講をなさった郷土が誇れる賢



師範 神崎勝氏

を雪吉政子氏(会員)が、また、「高杉晋作」「吉田松陰の門下生」を一瀬幹氏(下関市立東行記念館学芸員)が講演した。

丁度、NHK大河ドラマ「花燃ゆ」に高杉晋作が登場してきた時期と重なり、興味深かった。続く懇親会は会場をホテルレオパレスに移し、約五十名が参加した。

雪吉会員よくぞ顕彰してください。たと、岡山歴史研究会の会員の層の厚さを改めて痛感いたしました。

風雲児高杉晋作「吉田松陰門下生」

下関市立東行記念館学芸員、一瀬幹氏より講演を聴きました。

松下村塾では

・身分を問わず入門させる《次頁へ》

歴研 展望

今夏はどうも不順な天候と予測されているようですが、岡山歴研は着実な歩みを重ねていくために

に副会長三人制にしました。今年度も四月の定期総会から行事としての活動がスタートし、総会の内容も設立五周年を迎えることから二点変えて、一点は議案審議と記念講演の間にアトラクシヨンの演目として津山藩伝来の甲冑抜刀術の演武をお願いし、ステージ演武ではありませんが、普段見ることが出来ないことでご好評いただきました。

二点目は、講演テーマを郷土の先人を顕彰していく方向で、今回はまず山田方谷の一番の門下生、三島中洲を取り上げ、来年度以降への道をつけたということです。

また、五周年を迎える年度当初を飾るに相応しい出来事として、足かけ三年を要した県内の歴史関連団体の調査報告書を、県下初の冊子として『岡山県歴史関連団体便覧』という形で刊行できたことをあげなければなりません。ご尽力、ご協力いただいた全ての方々に心からお礼申しあげます。(会長 天野勝昭)

《前頁から続く》・入門に当たり何の
為に学問をするのかを問う

・塾生自身が何を学ぶか決める

・そして人は実行が第一である

という吉田松陰の教育方針のもと、十九歳で入塾を許可された晋作は二十九歳で早逝するまで自分の信念を貫きながらも最後に、私の志な

ど「空に浮かぶ雲や、野に遊ぶ鶴の
清らかさには到底及ばない」と述べています。

「面白い事もなき世に、おもしろく」という句の意味を改めて考えながら、子々孫々おだやかな日々を送れることを願うのは、子を生み育てた女性だけの願いでしょうか。

『岡山県歴史 関連団体便覧』 三年をかけやつと完成！

歴史団体調査報告書の刊行にあたって 会長 天野勝昭

この度、足かけ三年に及んだ岡山県下の歴史関連団体調査に、関係各位のご協力のもと報告書として当会設立五周年を迎える年に『岡山県歴史関連団体便覧』という形で、県下調査票記載内容の公表にもご理解、

ご承諾をいただきましたことに感謝申し上げます。今回の調査は、当会の設立にあたって、県下の既存活動団体の連携で岡山からの情報発信をということからも、当会の名誉顧問柴田一先生(就実大学元学長、名誉教授)のご示唆があったことが発端となりました。設立間もない会でありながら、行政を含めてどこも手掛けたことのないような大それたことに着手したものの、調査票をはじめすべて手探りの状態で、準備にかなりの時間がかかり、その上残念なことに当会で可能な情報把握には限界がありました。が、把握できた団体だけでもご協力

始し、担当組織として「データベース委員会」を新たに設け、精力的に調査を進め、中間報告として一次調査分を『歴史関連団体一覧』として取りまとめ、引き続き調査を進めて漸く結果報告に漕ぎつけることが出来ました。更に報告書作成にあたり、調査対象団体に厚かましくも募金をお願いしたところ、多くの団体からご理解いただき、加えて公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財団の助成事業に申請したところ助成対象にお認めいただき、予定しておりました千二百部を刊行することが出来ました。

▲山陽新聞社提供

県内142団体の活動紹介

県内の歴史愛好者らでつくる岡山歴史研究会(天野勝昭会長、約300人)は、県内全市町村の歴史関連142団体の活動実績などをまとめた便覧を作成した。相互交流や情報交換が狙い。

各団体の名称、設立趣旨をはじめ、地域史を学ぶ勉強会の開催、観光客向けのパンフレット作成といった活動内容を紹介。代表者の

岡山歴史研が便覧作成

名前と連絡先も載せている。これまで各地の団体を網羅したデータベースはなく、「他の地域にどんなグループがあるのかさえる知るすべがなかった」(山本敦事務局長)という。2012年から、会員の紹介や過去の新聞記事、各市町村教委への問い合わせなどで情報収集を進め、3月末に全調査が完了した。



県内全市町村の歴史関連団体の活動内容をまとめた便覧

天野会長は「地域の歴史は地元の人たちに聞くのが一番。横のつながりができれば、それぞれの活動がさらに充実すると思う」と話している。

A4判。64ページ。1200部作成し、各団体や会員、各地の図書館などに配った。希望者には郵送する。団体名は同研究会のホームページでも閲覧できる。問い合わせは山本さん(090-4576-6915)。

(柘植祐二)

柴田先生、85歳誕生日 100名を前に90分講演

七月十一日(土)、「さんかく岡山」にて当会名誉顧問の柴田一先生が「歴史に輝く岡山の女性たち」と題して講演された。百名近い参加で会場は満員となった。

先生は開口一番「今日は私の八十五歳の誕生日です。怒らない、風邪をひかない、転ばないの三つに

気をつけている」と発言され、会場は大きな拍手で包まれた。

歴史に輝く岡山の三名の女性——
①国内初の孤児院を開いた「日本のマザー・テレサ」と称される女性、和氣広虫

②岡山藩の歴史に残る偉人、津田永忠を育てた賢母、津田於寧

歴史上の女性に焦点

柴田就実大
名誉教授 講演で逸話紹介

柴田一・就実大名誉教授(1618〜78年)が、11日、岡山市男女共同参画社会推進センター(北区表町)で、岡山ゆかりの歴史上の女性にスポットを当て、あまり知られていないエピソードを紹介した。柴田さんは、岡山藩主池田光政の正妻勝姫し、「日本の孤児院の

山陽新聞社提供
平成27年7月14日
山陽新聞朝刊
岡山市民版 28頁



始まりだった」と評価した。市民ら約100人が聴講。大崎敬子さん

講演は、男女共同参画社会の実現に向け、女性の活躍について知ってもらおうと、同センターが企画した。

(石井聡)

岡山ゆかりの歴史上の女性について講演する柴田さん

—— についていつもの柴田節で九十分間を流暢にお話された。岡山歴研からは十四名が参加し、講演後、女性会員から長寿を祝って花束等のプレゼントをしました。

第十回歴研サロン

宇喜多家の人々

六月十六日(火)、天野勝昭氏(会長)が「宇喜多家の人々」と題し、膨大な資料を基に講演された。五十七名の参加で会場が一杯となった。

岡山はもともと宇喜多家が礎を築



▲長寿を祝って花束等をプレゼント

③夫、池田光政を支え、備前岡山藩の民百姓を救った千姫の娘、勝姫(円盛院)



▲資料片手に 天野会長

いたもの。現岡山市長のメルマガジン『宇喜多秀家の松』を読んで」や宇喜多に関した新聞記事を紹介して宇喜多家が本格的に脚光を浴びるに至ったと説明。天野氏は岡山城築城四百年関連事業を岡山市の責任者として取り組んだ。その関係で池田隆政氏に初めて面会した時、最初の一言「我々池田は宇喜多が造られたお城に入らせて頂いた」が印象に残ったという。

宇喜多家史談会は、柴田一先生が会長を務められ宇喜多家の顕彰活動をされている。秀家の行年と享年に二説あったが、柴田先生が豪姫の祈願依頼の書状から、通説八十三歳を享年八十四歳に覆されたとのこと。宇喜多同族会関係者が作成した系図表は現存する貴重な資料である。

なぜ郷土古代史 を研究するのか

佐藤光範(当会顧問)

日本の歴史書「日本書紀」「古事記」は、天皇家中心・大和中心で書かれている。同じ時代に、地方でも人が居り生活が繰り広げられていた。

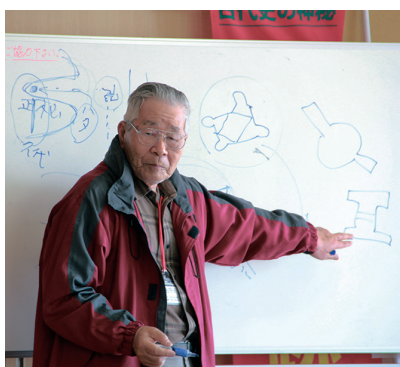
全国で一番大きい古墳は一応「仁徳陵」とされ、天皇家の命令で築造されている。四番目に大きい古墳でも「造山古墳」の被葬者は記録がない。地方にあり天皇家とは直接関係ないからだ。直接は関係無いかも知

れないが、「円墳」でも「方墳」でもない天皇家と関係がある「前方後円墳」の形になっているのは郷土の自慢だろう。

古墳時代が始まって、天皇家のお墓の象徴「前方後円墳」型が決まったのは、弥生時代末期に吉備で築造された「楯築墳丘墓」(当時倭国最大の大きさ)の形「双方中円墳」から作られた形だ。埴輪も楯築墳丘墓の上の特殊器台の変形したものだ。

記・紀には書かれていないが、考古学的事実は、吉備と天皇家(天孫族)との関係があったことだ。

関係があったからこそ、記・紀に書かれている様に、天孫族が吉備に逗留され、再び大和に向かって東征された際、天孫族は吉備族と一緒にたつて大和に入っている。日本書紀



▲3/28 熊山遺跡管理棟
にて講演する佐藤光範氏

には、第十代崇神天皇の時、それまで宮中で一緒に祭祀されていた二神「天照大神」(天孫族の祖神)と「大國御魂神」(ハタ氏の祖神)とを、共床で祀るのは畏れ多いとの理由で、「大國御魂神」を「大和(オオヤマト)神社」(天理市)で祭祀することになった」と書かれている。

ハタ氏の祖神「大國御魂神」とは、現在の秦の住民が総社市麻佐岐山で祀っている磐座だ。

ハタ氏を研究しなければ、郷土史も日本の古代史もわかるまい。

身近な所に 見えるもの

片山伸栄(運営委員)

「片山さんが郷土史を勉強したいと思ったのは何がきっかけ…それと文章にして」と言われ、私も自分を顧みた。

小学生の頃、父と二人で実家の裏山に登ることがあった。山の頂上付近には備前焼の大甕の破片が散らばり、土塁も丸く残っていた。

「昔ここに城があった」と父に教えられ、子供心に本やテレビで見る



▲史跡旧閑谷学校を案内
する片山伸栄氏(左端)

りっぱな建物を想像した。そしてどんなお殿様が住んでいたのか知りたいうと、気になっていたが、大人になって地元の郷土史会に入り、悩みは解消できた。

父が亡くなって二十年。古墳や遺跡の現地説明会にも一緒に行き、寺や神社も見えて廻った。古い物が好きだった父の思いが私を導いてくれていると感じる。

今、私は歴史好きな人達に囲まれて、幸せな日々を送っている。周りにはみんな先生。

私は書物よりも現地を歩くのが好きです。山城に登れば、この地に城が建てたことが解かり、遺跡地に行けば人々の豊かな生活が感じられる。《次頁先頭へ》

これから目指すもの

今秋十月、岡山歴史研究会は会設立五周年となります。会は今後何をを目指すのか？

3氏に寄稿頂きました。

二千年の歴史 岡山の魅力

楠敏明(運営委員)

横浜の歴史とは

今年三月、ある会合で横浜へ行った。ランドマークビルに「横浜には歴史がある。開国以来百五十年の歴史がある」と誇らしげに大書してあり、往時の写真が時系列に掲示してあった。岡山に生まれた私にはげげんに思えた。京都には平安京以来千二百年、東京には江戸幕府が開かれてより四百年の歴史がある。横浜にはせいぜい百五十年の歴史しかないというのが正確ではないか。ただ、巨大なビル群は奇を衒ったのではないということ言うためにあえて歴史を持ち出しているとは思えない。

過去に囚われない為に過去を研究

なぜ、過去を、歴史を研究するのか。物知りになるために研究するのか、一番知りたいのは過去よりもこれからどうなるかだ。しかし、それ



▲古里、倉敷市橋築遺跡にて楠敏明氏

岡山には二千年の歴史がある

吉備の国といわれ古里、岡山には二千年以上の歴史がある。先人が営々と築いてきた歴史、文化があり、その遺構、風土、風俗がある。我々は当たり前と受け入れて生きている。

ところが他県から来た人の意見に、岡山県人は伶俐、言い変えれば、燃えにくく、しぶいということをよく耳にする。東京や大阪のように頭の上でも平気で車が走るのが都会だ、都市だと考える人はどんなことでも受け入れられると思っているように見える。それからすると岡山ではなかなか受け入れられないと感じる事が多いかもしれない。それが伶俐、あるいは閉鎖的と見なされるかも。

岡山には営々と築かれてきた歴史や文化がある。それはビルの高さや車の多さ、あるいは効率率が主役ではない。その時代、時代を作り上げてきた多くの先人が、そして多くの遺産、遺構がそれを物語っている。

千年、二千年単位でものを見て、新しいことを知ること、そして新しい自分を見つけたいものである。

▶赤磐市熊山遺跡で記念撮影(二月二十八日)



第11回探訪会 謎の熊山遺跡ウォーク

三月二十八日(土)、六十四名で熊山遺跡を訪ねた。熊山遺跡群調査・研究会の男性たちの案内で各所に点在する遺跡を巡り説明を受けた。又、集会所で同会の女性たちの心のこもった豚汁で弁当を食べた。昼から当会顧問の岡野進氏と佐藤光範氏二人の講演を聴き、何のために造られた遺跡かを学んだ。が、謎が一層深まった。

会員・永谷格夫氏から感想文をお寄せいただいた。

謎の熊山遺跡を訪ねて

永谷格夫(会員)

三月二十八日(土)、六十四名が熊山遺跡(標高507m)を訪ねた。最寄りのJR駅に集合し、車両で山頂の広場に集った。マイカー利用の人や、中には約二時間歩いて広場に向かった猛者もあり、広場では多くの仲間が拍手で迎えた。

参加者の点呼、注意事項の確認、天野会長の挨拶を受け、三班(三コース)に分かれて出発した。各コースは、道程約3km、「熊山遺跡群調査・研究会探索部隊」のベテラン研究員の案内で、随所で説明を受けながら、約一時間半で踏破した。炭俵百俵は取れる大きな炭焼き窯跡、山中に三十三基あるという石積遺跡、並びに道程を示す「丁石」等について丁寧な説明を受けた。

私は山中の水溜りにカスミサンショウウオの卵を教えていただいて、自然界の営みの凄さに驚き、そしてまた、山頂からの眺望を堪能した。

三コースの参加者は、昼前に山中、最大にして完全な形(修復)の「一号石積遺跡」前に集結。見学後、管理棟集会所で昼食。地元ボランティアの心のこもった豚汁、香の物に手弁当の味も倍加した。

午後は同所での講演。熊山遺跡群

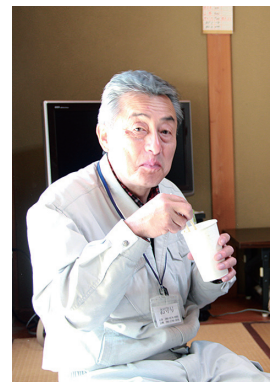


▲熊山遺跡ガイドをした山形和昭氏(報告会)

調査・研究会 副会長岡野進氏から、熊山遺跡の概要、地域で勢力を誇った、和氣一族、和氣清麻呂公との関連等を聴いた。また、当会 佐藤光範顧問からは、「熊山遺跡はヒンドウ教のシバア神の象徴である」との見解を伺った。

石積ができてから、約千三百年。国内では特殊なこの石積が何を意味するのか、確かなことは未だ不明で、見れば見る程、聞けば聞く程、謎とロマンに誘われた。なればこそ、陳舜臣、司馬遼太郎等の作家や、多くの人が訪れたのでしょう。

ちなみに熊山遺跡については、①戒壇Ⅱ仏の戒を受ける壇、②経塚Ⅱお経を埋め後世に残す、③墳墓Ⅱ高僧の墓、等々の諸説があるとのこと。一日がかりの歴史探訪も、何らトラブルもなく、午後三時無事終了。全員が充実感と心地よい疲れを感じながら帰路に就いた。



▲熊山遺跡ガイドをした津曲真人氏(報告会)

▶吉備中央町の吉川公民館前にて

第12回探訪会 旧賀陽町を訪ねる



▲妙本寺で説明役をつとめる芝村氏(中央)

五月三十一日(日)、五十五名が旧賀陽町を訪ねた。吉備中央町の新旧町長他の出迎えを受けた。
芝村哲三氏(郷土史・研究会・顧問・90歳)と賀陽町歴史顕彰保存会の案内で同町内十九カ所を巡り歴史を堪能した。参加者全員が芝村氏の著書を頂いた。同氏に当日の様子を寄稿頂いた。

歴史の里 旧賀陽町に会員の皆様をお迎えして

芝村哲三(当会顧問)

前日まで雨天の予報でありましたが、天は、旧賀陽町探訪会を支援して下さったのであろうか、当日はガラリと晴れ渡りました。

その日、山本町長には一番乗りで会員をお迎え下さり、歓迎のご挨拶を賜り、続いて、名誉町民第一号の重森前町長にもご臨席をいただき感

謝しているところであります。

ご案内については、何分に大型バスでの旧町内一巡でありますし、それに時間の制限がありますので、細目なご説明はできませんでしたが、さすがは歴史研究会。傑人揃いで、佐藤光範様をはじめ同乗役員の方々、に地元の方々よりも、詳しい説明を戴き感謝しているところであります。

商工会青年部が四十年前に建て、今は吉備中央町の教育委員会の管理となっている観光案内板が三十二ヶ所(旧賀陽町分)建てられているのですが、それらを説明する余裕がありませんでした。会員の皆様には、それぞれの事蹟地において熱心に見聞を広めて頂き、地元の方々としては満足している処であります。只、残念でありましたことは、場

所的都合、時間的都合に因りまして、次なる場所がご案内でできなかったこととあります。

①室納物語―播州室納の関係地
②天正三年四月四日の竹乃荘合戦の物語地(備中三村一族滅亡期に關して)

③天正三年陣山合戦の戦没者埋葬の巨大な首塚及び現存する防壁群

④慶応四年「野山一揆」と称する百姓一揆とその帰結

⑤山田方谷による野山在宅武士家のその後の帰結

⑥源平期・平師盛の所領地―右衛門田(よもんだ)の説明

⑦田中の地名の由来、田中屋敷跡―別名胡桃田(くるみだ)屋敷

⑧臨濟宗・永源寺派の大規模寺院貞徳寺の全容と帰結(これは賀陽町史にも載っていません。以来、臨濟宗

は町内には存在していません)

⑨明徳の乱における、多氣莊の蜂起事件とその顛末及びその場所(新見市史所蔵)

⑩刀剣、甲冑等の原料採掘地、「かなくそ」と石見銀山との関係

私の小著の中に記した事蹟地もありますが、又の機会とします。

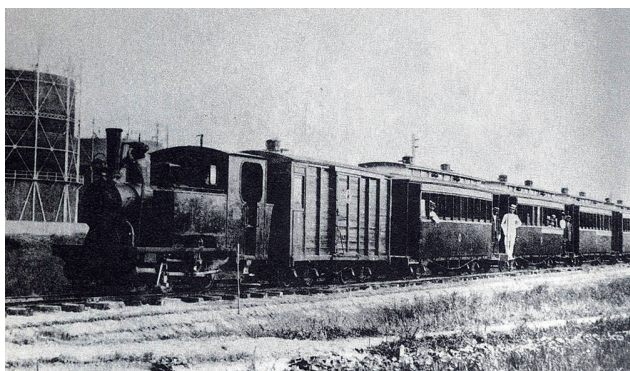
三幡鉄道研究会 “幻の鉄道”を顕彰

会長 内田武宏

団体 紹介

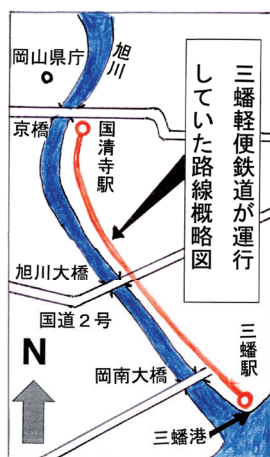
三幡軽便鉄道は大正四年八月十一日に開通した。当初、三幡駅が始発で桜橋まで。主に石炭運搬や女工さんなどに利用される貨物と客車の混合列車でした。

開通から百周年になる今年、三幡鉄道研究会では昭和六年までの十数年の短命に終わった三幡軽便鉄道を



▲大正4年頃混合列車（岡山市中区桜橋：岡山ガス付近）

▼現在の岡山市地図に重ねた路線概略図



後世に伝承しようと、百周年記念事業を展開しています。現在では残る資料が少なく、当時の取締役、監査役など役員の生家を訪ねるなどして情報収集に努めてきました。そこで判ったのは、会社設立から開業まで驚異的なスピードでこぎつけた関係者の行動力、結束力でした。開業に向けての功績や関係文化遺産の保存に功績のあった方々を顕彰していくべきとの思いにかられ、百周年記念事業を計画しました。

かつて、鉄道マンは憧れの的であり、文字通り住民たちの足であり、地域住民に親しまれて熱い視線を浴びました。

今では九十歳ちかい高齢者しか乗車経験もない鉄道です。大正十二年、乗客確保のために国清寺駅まで延長し、岡山電気軌道と乗り継いで岡山駅までのアクセスを容易にしました。

講座三 日本神話について

三月二十日

(金)、熊代哲士氏(会員)が「日本神話について」をテーマに講演した。三十一名が参加。

講師自身が難しい古事記、日本書紀等のすばらしい



▶熊代哲士氏へ花束の贈呈

資料を作成された。講演は判りやすく、好評であった。終了後、講師に花束贈呈。そして参加者全員で記念写真を撮った。

二回開催予定であったが、講師の都合で一回となった。次回の開催を望む声が多く寄せられている。

鉄道の利用者には、四国に渡るお

遍路さん、三幡駅で尼崎汽船に乗り換えて、神戸、大阪方面に向かう客でも賑わった時期がありました。

また、一時は宮道海水浴場での海水浴客、潮干狩り客、濱中や三幡での釣り客でも賑わいました。

現在の陸路中心の交通体系では想像できませんが、当時は海路中心で、文字通り三幡港は岡山の表玄関として繁栄を極めました。

百周年記念事業

①スタンプリング（七月・八月）

先着二百名記念品

②記念大会 九月五日(土)六日(日)

場所 山陽学園大・短大

展示 資料・写真(約二十点)

講話 太田健一氏(同大名誉教授)

授)・岡将男氏(NPO法人公共の交通ラクダ会長)・定兼学氏(県立記録資料館館長)他

③子供神輿(十月三日)

蒸気機関車を竹細工で再現。沿線を地元子供達が練り歩く

問い合わせ(内田)

090・8242・8140

講座四 岡山の文化財 「岡山の甲冑」「備前刀」



白井洋輔氏(当会顧問)を講師に、岡山の文化財「岡山の甲冑」「備前刀」と題する講座を、六月、七月に「きらめきプラザ」岡山県北地区で開催した。

第一回 岡山の甲冑

六月十一日(木)、「岡山の甲冑」の講座に二十八名が参加した。以前「岡山は超一級甲冑の宝庫」と題して会報第八号に寄稿して頂いた。

この度も岡山は甲冑の宝庫であると先生は力説された。国宝 赤韋威鎧(あかがわい)は平安朝末期の鎧で、武士が登場してきた頃のもので当時の武士の美意識を反映しているとのこと。鎧は当時のあらゆる分野の工芸の粋を集めて作られる。皮革、染色、織物、組紐、手芸、印刷、漆芸、鍛工、穿孔、金工、鍍金など。関東で作られたものであるが、県内の民間人が所有していたものを先生が岡山県教委時代、中心になって岡山県が購入した。



▲「岡山の甲冑」講座で「岡山は甲冑の宝庫」と力説の白井氏(6月11日)

鎌倉時代になると甲冑が完成され、岡山に色々威(おどろ)甲冑が重要文化財として残っている。

室町時代になると戦闘が激しくなり、戦法も多様化し、多量生産、軽量化が図られたとのこと。足利尊氏が奉納したと伝えられる藍韋威肩白腹巻が重要文化財として瀬戸内市内の寺に保存されている。

江戸時代になると戦がなくなり、非実用的、装飾的となり、技巧に傾斜する傾向がみられたと説明された。

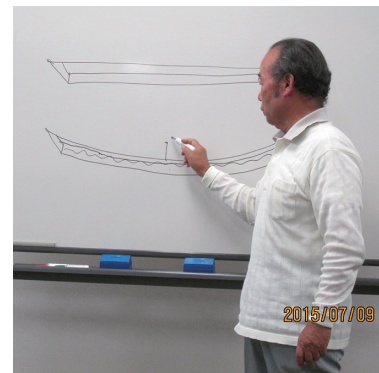
第二回 備前刀について

七月九日(木)二十八名が参加して備前刀の話に耳を傾けた。

人間の生活は矛盾に満ちている。刀剣も同じで、折れず、曲がらず、切れ味がよくて、美しいという矛盾の中で、それを見事に解決したのが備前刀であると説明された。

国内でできる原料の鉄の七割は山陽と山陰で生産されている。そして、その鉄を使って作られた刀剣。国宝の半分が備前、備中で作られているとのこと。

その理由は純粋でない鉄を使い、



▲備前刀の特徴を図示する白井氏(7月9日)

しなやかに鍛えてものにするといい、いわば岡山の文化そのものであるとのこと。それは焼き入れの温度であったり、鍛えの回数であったりして『強さとしなやかさ』を両立させていると、その模様を白板に図示しながら説明された。

名刀の著名な産地とその特徴は
相模国…パワフル
美濃国…先鋭的スピード感
山城国…洗練された品格
大和国…クラシックで素朴
備前国…力強さとハーモニー

であるが、備前刀は圧倒的長期間にわたって市場の七十%を占めてきたとのこと。命がけの戦場で自分を守るものへの絶対的な信頼は見かけ倒しのものでは得られない。それも時代が作るとの感が強いとのこと。

全国歴研因幡伯耆鳥取大会鳥取市 10月16日～18日多数のご参加を!

今年の全国大会は鳥取です。隣の県です。奮って、多くの参加者を募ります。

参加希望者は事務局に申込下さい。

岡山駅西口からマイクロバスを用意します。(参加第一次締切：八月十日)

【第一日】式典・記念講演・祝賀

日時 十月十六日(金) 午後十二時半受付

会場 ホテルニューオータニ鳥取(※)

式典 午後一時半～二時二十分

記念講演会 午後二時半～五時

演題①「邪馬台国山陰説」

講師 田中文也氏(岡山大学)

演題②「秀吉の鳥取城攻め」

講師 岡村吉彦氏(鳥取県史)

参加費 二千元

祝宴 午後六時～八時

参加費 一万二千元

【第二日】見学会①「因幡万葉コース」

日時 十月十七日(土) 集合※ 八時出発

見学先 仁風閣、鳥取県立博物館、池田家

墓所、宇倍神社、因幡万葉歴史博物館、

参加費 見学会(昼食付) 一万二千元

【第三日】見学会②「伯耆古代コース」

日時 十月十八日(日) 集合※ 八時出発

見学先 白兎神社、倭文神社(一宮)、倉

吉白壁土蔵群(大岳院里見家墓所)、妻

お知らせ

歴研サロン

第十一回「緒方洪庵と岡山の門下たち」

講師 大濱文男氏(会員 岡山人物銘々

伝を語る会会員)

日時 九月二十九日(火) 十三時半～

第十二回「大化の改新 裏の人物を語る」

講師 富久豊氏(会員 歴史小説家)

日時 十月二十日(火) 十三時半～

「歴研サロン」場所・参加費・定員

場所 きらめきプラザ二階大会議室

(旧国立病院跡)

参加費 会員・一般とも 五百円

定員 六十名・要申込(事務局)

お知らせ

備中倉敷数学 十周年記念シンポジウム 備中の漢学を考える

備中出身の明治三大文宗の一人、三島中洲、興譲館初代館長の阪谷朗盧と武蔵国(現埼玉県深谷市)出身で日本資本主義の父、渋沢栄一との関係に焦点をあて備中の漢学の果たした役割を浮き彫りにし、現代的意味を考える。

日時 九月十日(木) 十八時～二十時半
会場 倉敷公民館(聴講自由)

「備中倉敷の漢学—三島中洲と渋沢栄一—」
パネリスト 町泉寿郎(二松学舎大学)・濱野靖一郎(法政大学)・于 臣(横浜国立大学)・丁 世紘(関西大学大学院)

コメンテーター 見城惕治(千葉大学)

司会 桐原健真(金城学院大学)

主催 公益財団法人 渋沢栄一記念財団

共催 二松学舎大学・備中倉敷数学・他

問合せ 090・8999・1624 山本

■編集後記■

岡山歴研設立五周年。原点、「なぜ郷土の歴史を研究するか」「岡山歴研の立ち位置は」に関するページを設けたので今回は十頁になりました。

県立倉敷青陵高校時代の恩師、柴田一名(顧問)が元気で活躍していらつしやることはうれしい限りです。

旧賀陽町の探訪会に参加し、社寺や史跡が多いのに驚きました。

猛暑の折、ご愛ください。(楠)

発行 岡山歴史研究会

会長 天野勝昭

編集長 楠 敏明

事務局 〒701-1332

岡山市北区平山 844-86 山本方

電話 086・287・6226

